

癌性胸膜炎に対し胸腔内抗癌剤投与に胸部領域外部加温による 温熱療法を併用し奏効した一例

産業医科大学 放射線科学

矢原勝哉、大栗隆行、戸村恭輔、中原惣太、垣野内祥、興梶征典

健愛記念病院

溝口義人

【目的】 癌性胸膜炎に対して胸腔内抗癌剤投与の治療効果の増感を目的に、胸部領域外部加温による温熱療法を併用し奏効した一例を経験したので報告する。

【症例】 60歳台、男性、呼吸苦を主訴に来院し、CT上、多量の左胸水による右方向への縦隔偏位を認め、胸水より腺癌を認め、肺癌 IVb 期 (T1bN0M1c) と診断された。癌性胸膜炎のコントロールを目的に、シスプラチン(20mg)とピシバニール(10KE) の胸腔内投与の直後に胸部領域加温による温熱療法を総 4 回併用した。加温は Thermotron RF-8 により行った。電極径は腹側・背側いずれも 30cm 径を使用した。総 4 回の施行回のうち 3 回で胸腔ドレーン内より 4 点マイクロサーモカップルセンサーを挿入し胸腔内温度を測定した。胸腔内温度の最高温度は、42.2℃～44.7℃に到達しており良好な温度上昇が得られていた。治療後、胸水は消失し以降 7 ヶ月間の経過で癌性胸水の再貯留を認めていない。また、治療終了後 3 ヶ月の PET/CT において胸腔内に異常集積を認めなかった。Grade 2 以上の有害事象を認めなかった。

【結語】 肺癌の癌性胸膜炎に対し胸腔内抗癌剤投与に外部加温による温熱療法を併用し、良好な治療経過が得られた 1 例を経験した。胸腔内温度測定により良好な温度上昇が確認されており、温熱の治療効果への貢献が高いものと推測された。